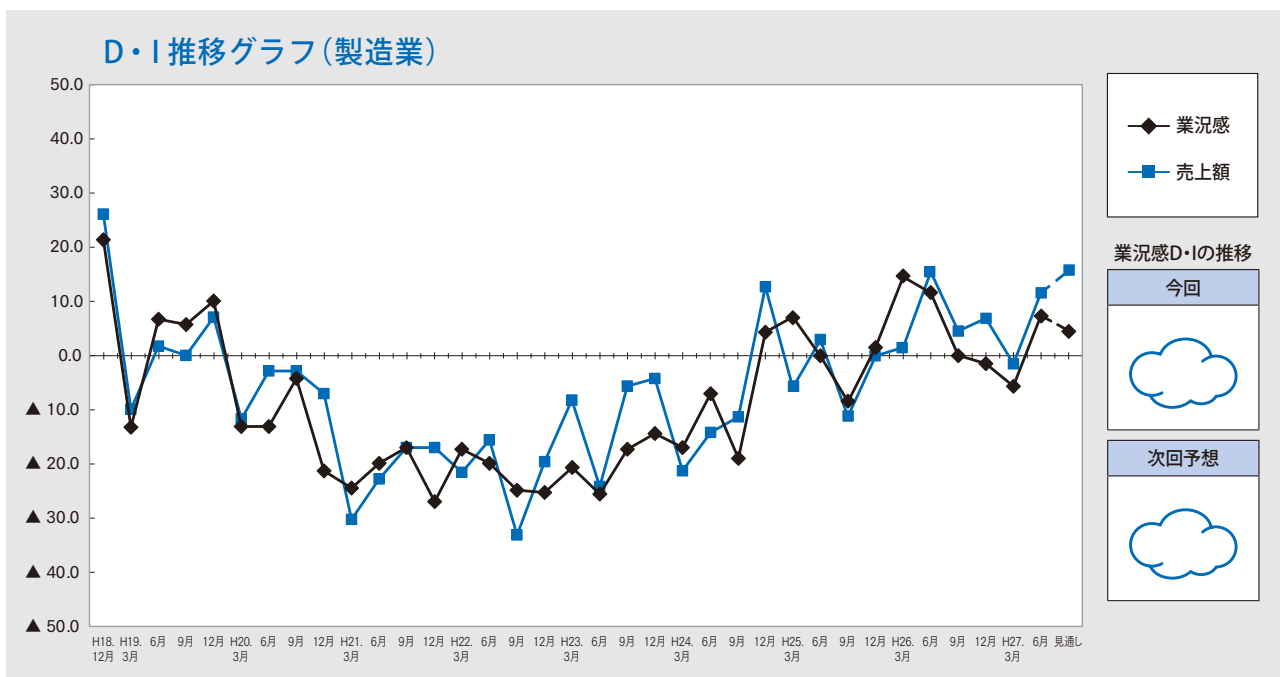


製造業

Manufacturing

業況感4期ぶりに改善



1 今期 (平成27年4 - 6 月期)

今期の製造業の業況感は、7.1(前期▲5.7)となり、前期比12.8ポイント上昇。3期ぶりにD・I値プラスへ改善した。

仕入価格はやや悪化したものの、販売価格は横ばい、売上額D・Iは大きく改善。結果、収益D・Iも前期比で21.5ポイントと大きく上昇した。

在庫は不足感が解消され適正值に、資金繰りも改善するなど、全体的に好調となっている。

2 来期の予想 (平成27年7 - 9 月期)

来期は「やや良い」と回答する企業数が減少し、業況感は今期から2.8ポイント低下する見込みとなっている。

売上額や、今期悪化した仕入価格D・Iは、来期やや改善する見込みだが、販売価格が上昇、収益も悪化する予想。人手については不足感が横ばいの予想。

DI値の推移 (過去1年と3ヶ月後の予想)

	H26.6月期	H26.9月期	H26.12月期	H27.3月期	H27.6月期	来期見込み
業況感	11.6	0.0	▲ 1.4	▲ 5.7	7.1	4.3
売上額	15.7	4.3	6.9	▲ 1.4	11.4	15.7
収益	8.7	0.0	▲ 2.8	▲ 11.4	10.1	5.7
販売価格	20.0	27.1	12.5	8.6	8.7	7.2
仕入価格	▲ 47.1	▲ 47.1	▲ 44.4	▲ 24.3	▲ 31.9	▲ 21.4
在庫	▲ 2.9	▲ 8.6	2.8	2.9	0.0	2.9
資金繰り	▲ 24.3	▲ 12.9	▲ 25.0	▲ 14.3	▲ 12.9	▲ 12.9
人手	18.6	4.3	11.1	2.9	15.7	15.7
設備状況	15.7	17.1	9.9	10.0	5.7	4.3

業況調査メモ

消費者の健康志向は依然として根強いものがある。そんななか、体によいという科学的根拠を政府に届ければ60日後に販売できる「機能性表示食品制度」が4月スタートした。県内には緑茶や黒酢、黒糖をはじめ昔から庶民の暮らしに根付いてきた機能性食品は数多い。これに加えて、これまでその多くが捨てられてきた、例えば魚の頭を丸ごと摂取することで、カルシウムは骨粗しょう症、ビタミンDは心血管疾患、EPAは心筋梗塞や脳梗塞、DHAは認知症などの予防に効果が期待される。大学や研究機関でこうした食品の健康効果を立証し、最終商品化することは県内の一次産業、食品加工業の活性化につながる。